

NISEの研究活動

研究基本計画

特別支援教育のナショナルセンターとして、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献するために、国として特別支援教育政策上重要性の高い課題に対する研究や教育現場等で求められている喫緊の課題に対応した実際的な研究に取り組んでいます。こうした研究活動を、中長期を展望しつつ、計画的に進めるため、「研究基本計画」を策定しています。

この「研究基本計画」は、国の政策動向等を踏まえ、適宜改訂を行っています。

研究体系

研究は、以下の研究体系に基づき、戦略的かつ組織的に実施します。

研究区分	研究の性格(研究期間)
基 幹 研 究	文部科学省との緊密な連携のもとに行う、国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究 その内容等により、以下のとおり区分する。 ・横断的研究：各障害種別を通じて、国の重要な政策課題の推進に対応した研究(原則5年間) ・障害種別研究：各障害種における喫緊の課題に対応した研究(原則2年間)
地 域 実 践 研 究	インクルーシブ教育システムの構築に向けて、地域や学校が直面する課題の解決のために地域と協働で実施する研究。 メインテーマの下に、数本のサブテーマを設定(原則2年間)
共 同 研 究	NISEが大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究
外 部 資 金 研 究	科学研究費助成金等の外部資金を獲得して行う研究
受 託 研 究	外部からの委託を受けて行う研究

研究の企画立案から実施、評価

各研究の企画立案から実施、評価及び普及までをおおむね次のような過程で行い、研究の企画立案や実施に教育現場のニーズ等を的確に反映するとともに、評価を研究の質的向上に生かしています。

【研究の企画と実施の計画】

研究基本計画やこれまでの研究ニーズ調査結果等を踏まえ、各研究班において研究課題の企画やその検討を行い、研究実施計画書の作成を進めるとともに、並行して、当該研究の概要について都道府県等教育委員会や関係団体等に対し意見照会（研究ニーズ調査）を行います。その意見照会の結果も踏まえ、研究実施計画書について必要に応じて見直しを行います。

【研究の実施及び中間評価】

研究実施計画書に基づき研究活動を実施します。研究期間は基幹研究（横断的研究）については原則5年、それ以外の研究については原則2年を年限とし、研究期間の中間点において、研究の進捗状況等について中間評価（研究所内による内部評価及びNISEが外部有識者に委嘱する評価者による外部評価）を実施します。

【研究成果のまとめと評価】

研究の成果を研究成果報告書にまとめます。また、研究成果報告書等の成果物を基に研究の最終評価として、中間評価と同様、研究所内による内部評価及びNISEが外部有識者に委嘱する評価者による外部評価を実施します。

研究体制

研究活動を組織的に行うために、各年度の研究計画を立案するとともに、進行管理等を行う「研究班」を設けています。研究班は、以下の15の班で構成され、研究課題に応じたチームを構成して研究を推進しています。

平成28年度 研究班一覧

研究班		班長	副班長
各障害種別を通じて、国の重要な政策課題に対応する研究班	インクルーシブ教育システムに関する研究班 (インクルーシブ教育システム班)	原田 公人	金子 健 星 祐子
	特別支援教育における教育課程に関する研究班 (教育課程班)	澤田 真弓	笹森 洋樹 江田 良市
障害種別専門分野の課題に対応する研究班	視覚障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (視覚班)	田中 良広	金子 健
	聴覚障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (聴覚班)	原田 公人	定岡 孝治
	知的障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (知的班)	明宮 茂	涌井 恵
	肢体不自由のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (肢体不自由班)	長沼 俊夫	金森 克浩
	病弱・身体虚弱等にある子どもの特別支援教育に関する研究班 (病弱班)	新平 鎮博	森山 貴史
	言語障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (言語班)	小林 倫代	久保山茂樹
	自閉症のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (自閉症班)	柳澤亜希子	村井敬太郎
	発達障害 (LD・ADHD・高機能自閉症等) のある子ども又は情緒障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (発達・情緒班)	江田 良市	伊藤 由美
	重複障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (重複班)	齊藤由美子	星 祐子
インクルーシブ教育システムの構築に向けて地域や学校が直面する課題に対応する研究班	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する研究班 (地域システム班)	牧野 泰美	涌井 恵
	インクルーシブ教育システムの構築に向けた研修に関する研究班 (研修班)	長沼 俊夫	大崎 博史
	交流及び共同学習の推進に関する研究班 (交流及び共同学習班)	久保山茂樹	定岡 孝治
	教材教具の活用と評価に関する研究 (教材教具班)	金森 克浩	棟方 哲弥

基幹研究

平成28年度に実施する基幹研究の概要は以下のとおりです。

平成28年度 研究課題一覧（基幹研究）

研究区分	研究課題名	研究班	研究代表者	研究期間
横断的研究	我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究	インクルーシブ教育システム班	原田 公人	平成28～32年度
	特別支援教育における教育課程に関する総合的研究	教育課程班	澤田 真弓	平成28～32年度
障害種別研究	特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究－各部署間の連続性を踏まえた指導の検討－	自閉症班	柳澤亜希子	平成28～29年度
	発達障害等の特別な支援を必要とする子供の実態に応じた指導内容・方法に関する実践的研究－高等学校における通級の在り方の検討－	発達・情緒班	笹森 洋樹	平成28～29年度
	知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程の在り方－アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化－	知的班	明宮 茂	平成27～28年度
	「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実践的研究－言語障害教育の専門性の活用－	言語班	小林 倫代	平成27～28年度



研究協力機関との研究協議会



文部科学省内ラウンジでの研究成果報告会

基幹研究（横断的研究）

我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究

研 究 班： インクルーシブ教育システム班

研究代表者： 原田 公人

研究分担者： 星 祐子（副代表）、金子 健（副代表）、小林 倫代、生駒 良雄、横山 貢一、
松井 優子、土井 幸輝、柳澤 亜希子

研 究 期 間： 平成28～32年度

概要：

障害者の権利に関する条約の批准や障害者差別解消法の施行を踏まえ、インクルーシブ教育システムの構築は国の重要な政策課題であり、第4期中期目標期間においては、各地域や教育現場におけるインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を着実に進めることに寄与する研究を実施する必要があります。このため、本研究のメインテーマを「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」として、5年間の研究を実施します。具体的には、各地域で展開されているインクルーシブ教育システムの構築の成果や課題を可視化する評価指標を作成し、その検証を行うとともに、我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に際して残された課題やその後の展望を示すことにより、今後のインクルーシブ教育システムの構築の進展に寄与します。

なお、平成28～29年度においては、国内外のインクルーシブ教育システム構築の状況、及びその評価の取組に関する実態調査を実施し、インクルーシブ教育システム構築の評価指標（試案）を作成します。

特別支援教育における教育課程に関する総合的研究

研 究 班： 教育課程班

研究代表者： 澤田 真弓

研究分担者： 笹森 洋樹（副代表）、江田 良市（副代表）、海津 亜希子、北川 貴章、清水 潤、
武富 博文、村井 敬太郎、若林 上総

研 究 期 間： 平成28～32年度

概要：

現在、学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会において議論が行われており、平成28年度中には答申が取りまとめられ、移行期間を経て平成32年度には、新たな学習指導要領に基づく教育課程が本格的に実施されることが見込まれています。次期学習指導要領の円滑な実施を支援することは本研究所の重要な役割であり、このため、メインテーマを「特別支援教育における教育課程に関する総合的研究」として、5年間の研究を実施します。

具体的には、インクルーシブ教育システムの構築を踏まえ、連続した多様な学びの場における教育課程の在り方について研究を実施し、障害のある子供たちの教育的ニーズに対応した指導や校内体制の在り方を示すことにより、次期学習指導要領の円滑な実施に寄与します。

なお、平成28～29年度においては、通級による指導の対象となる障害種について、通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて、①通級による指導の教育課程上の位置付けや担当者間の連携の実態と課題を明らかにし、課題についての対応を提言します。また、②通級による指導の内容を、通常の学級での授業や生活に生かすための視点や配慮について整理し、「手引き書」を作成します。

基幹研究（障害種別研究）

特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究－各部間の連続性を踏まえた指導の検討－

研 究 班： 自閉症班

研究代表者： 柳澤 亜希子

研究分担者： 村井 敬太郎（副代表）、西村 崇宏、李 熙馥

研 究 期 間： 平成28～29年度

概要：

特別支援学校（知的障害）では、自閉症のある幼児児童生徒の増加が指摘されていますが、在籍数や障害の程度等については、研究所が平成16年に実施した調査以降行われておらず、正確な情報が得られていません。また、特別支援学校（知的障害）では、知的障害の程度が軽度である児童生徒の在籍の増加が指摘されていることから、自閉症のある幼児児童生徒の実態の多様化が推測されます。このため、本研究では、特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態（在籍状況や障害の程度等）を把握するとともに、自閉症に特化または対応した教育課程や学級編制を行っている特別支援学校（知的障害）の成果と課題を分析します。また、幼稚園から高等部の各部段階で、どのような実態の幼児児童生徒に、どのような指導が実施されているのか、各部で重視されている指導は何かについて、各部間の連続性を踏まえて検討します。以上を踏まえ、特別支援学校（知的障害）のセンター的機能の役割として、特別支援学級等その他の学びの場に発信すべき自閉症教育の専門性について考察します。本研究では、各部での指導に関する実践を事例集としてまとめ、教育委員会や教育センター、特別支援学校（知的障害）に配布し、発達段階に応じた指導の充実と自閉症教育の専門性の向上に寄与します。

発達障害等の特別な支援を必要とする子供の実態に応じた指導内容・方法に関する実践的研究－高等学校における通級の在り方の検討－

研 究 班： 発達・情緒班

研究代表者： 笹森 洋樹

研究分担者： 伊藤 由美（副代表）、若林 上総、江田 良市、海津 亜希子、横山 貢一、玉木 宗久、
棟方 哲弥、渥美 義賢

研 究 期 間： 平成28～29年度

概要：

発達障害のある児童生徒の教育においては、個々の特性に応じた指導が可能となる通級による指導が重要な役割を担います。平成26～27年度専門研究B「発達障害のある子供の指導の場・支援の実態と今後の指導の在り方に関する研究－通級による指導等に関する調査を基に－」においては、市町村における通級による指導の在り方について、全国調査を通してその実態を明らかにしました。平成30年度より、高等学校にも発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への支援の場として、通級による指導の制られることとなります。本研究では、高等学校に通級による指導を導入するに当たり、進路指導や関係機関との連携も含めた校内支援体制の構築・充実や地域における体制整備等について検討するとともに、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の実態や障害の特性に応じた自立活動等の指導内容・指導方法等の在り方について検討します。高等学校における発達障害等のある生徒の自立活動の内容・方法等について明らかにすることは、高等学校における合理的配慮についての知見を提供し、インクルーシブ教育システムの構築・充実に寄与するものとなります。

知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程の在り方 ーアクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化ー

研 究 班： 知的班

研究代表者： 明官 茂

研究分担者： 涌井 恵（副代表）、武富 博文（副代表）、横尾 俊、清水 潤、松井 優子、神山 努、
半田 健、福本 徹

研 究 期 間： 平成27～28年度

概要：

特別支援学級や特別支援学校を中心とした知的障害教育分野では、弾力的で自由度の高い教育課程編成ができることから、知的障害の状態等も多様な中で、指導目標や指導内容を設定し、アクティブ・ラーニングを含めた指導方法を確立すること、また、それに対応した評価をどのように進めるか検討することが重要な課題です。このことに関して、平成25～26年度に実施した「特別支援学校（知的障害）における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究」では、特別支援学校における組織的・体系的な学習評価の推進やカリキュラム・マネジメント手法の構築には、依然として課題が残されていることを指摘しています。特別支援学校（知的障害）では、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程編成の在り方として、学習・指導目標や指導内容・指導方法及び評価方法を一体的に捉えたカリキュラム・マネジメントについての検討と実践事例の積み上げを行う必要があります。

このため、本研究では、学習指導要領の改訂を見据え、「育成すべき資質・能力」を確実に身につけるための指導内容・方法・学習評価の一体化の在り方について、教育現場ではどのような工夫や改善方策が考えられるのかを検討します。研究成果については、アクティブ・ラーニングの具体的実践方法やカリキュラム・マネジメントの考え方及び進め方として提案し、関係校長会等を通じて、教職員等への理解・普及を図ります。

「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際的な研究ー言語障害教育の専門性の活用ー

研 究 班： 言語班

研究代表者： 小林 倫代

研究分担者： 牧野 泰美（副代表）、久保山 茂樹

研 究 期 間： 平成27～28年度

概要：

子供の成長過程における課題がことばの側面に現れることも多いことから、言語障害教育は、これまでも特別支援教育の入口として様々な役割を担ってきました。現在、言語障害教育担当教員は、言語指導に関する専門性の維持及び向上を図るとともに、校内や地域でのインクルーシブ教育システムを構築する役割を求められています。そこで本研究では、言語障害教育担当教員の専門性の維持及び向上を図る方策を検討することとともに、言語障害教育がインクルーシブ教育システムの構築に果たす役割を、言語障害教育の専門性の活用の観点から検討し整理します。研究の成果は、全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会や各地域の研究大会等において報告することなどを通して、教育行政や教育現場の取組に寄与します。

地域実践研究

地域実践研究は、平成28年度より開始した新しい体系の研究です。地域や学校が直面する課題を研究テーマに設定し、その解決を目指して、NISEの研究員と外部の専門家や教育委員会より派遣された地域実践研究員と共に研究に取り組みます。

平成28年度に実施する地域実践研究の概要は以下のとおりです。

なお、各地域実践研究テーマの詳細には、P27.「地域実践研究」をご覧ください。

平成28年度 研究テーマ一覧（地域実践研究）

メインテーマ1：インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究

サブテーマ	研究班	研究代表者	研究期間
地域におけるインクルーシブ教育システム構築に関する研究 ー学校間連携及び県・市町村間連携を中心にー	地域システム班	牧野 泰美	平成28～29年度
インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究 ー「インクルーシブ教育システム構築研修ガイド」の活用ー	研修班	長沼 俊夫	平成28～29年度

メインテーマ2：インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際研究

サブテーマ	研究班	研究代表者	研究期間
交流及び共同学習の推進に関する研究	交流及び共同学習班	久保山茂樹	平成28～29年度
教材教具の活用と評価に関する研究 ータブレット端末を活用した指導の専門性の向上と地域支援ー	教材教具班	金森 克浩	平成28～29年度



本年度の地域実践研究員



地域実践研究事業合同会議の様子

共同研究

平成28年度に実施する共同研究の概要は以下のとおりです

平成28年度 研究課題一覧（共同研究）

研究課題名	共同研究機関	研究代表者	研究期間
インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較ーフィンランド、スウェーデンと日本の比較からー	高知大学 津田塾大学	明官 茂	平成28～29年度

インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較ーフィンランド、スウェーデンと日本の比較からー

共同研究機関： 高知大学、津田塾大学

研究代表者： 明官 茂

研究分担者： 涌井 恵（副代表）、武富 博文、横尾 俊、清水 潤、松井 優子、神山 努、半田 健、福本 徹

研究期間： 平成28～29年度

概要：

インクルーシブ教育システムの構築が昨今の教育における喫緊の課題となっていますが、障害のある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育場面における指導方法については、まだ効果的な指導技法や集団編成に関する知見が不足しています。また、真に教育的効果について検証するならば、障害のある子どもとない子どもの双方における効果についての検討が必要です。

そこで、本研究では、障害児・者に関する教育や福祉分野の先進国である北欧諸国（スウェーデンとフィンランド）と日本の国際比較から、効果的な指導方法等について探っていくことを目的としています。

研究方法としては、北欧諸国の小・中学校の訪問調査や教員等へのインタビュー調査を行い、質的な分析を行います。各国の教育システムや文化的背景などの要因も加味しながら分析を行い、通常の学級で学ぶ際の効果的な指導内容や方法の具体についてまとめます。これらの資料は、日本における知的障害のある児童の交流及び共同学習の実践を深化させるために、学校現場の教員にとって有用な資料になると考えられます。

詳しくはこちら→

NISE WEBサイト > 研究紹介

<http://www.nise.go.jp/sc/kenkyu/>

外部資金研究

平成28年度に科研費により実施する研究の概要は以下のとおりです。

平成28年度 科研費による研究課題一覧

研究種目	研究課題名	研究代表者	研究期間
基盤研究(B)	多層指導モデルによる学習困難への地域ワイドな予防的支援に関する汎用性と効果持続性	海津亜希子	平成25～28年度
	アクセシブルデザインの理念に基づく晴盲共用の触知シンボルの形状とサイズの解明	土井 幸輝	平成27～29年度
	通常学級における協同的でユニバーサルデザインな授業実践の開発	涌井 恵	平成27～30年度
基盤研究(C)	吃音のある子どもの自己肯定感形成に向けた教員と保護者の協働支援プログラムの開発	牧野 泰美	平成25～28年度
	一貫した支援を実現するための幼稚園と小学校との連携内容・方法に関する実証的研究	久保山茂樹	平成25～28年度
	学習支援に活用できる実行機能評定尺度の開発	玉木 宗久	平成26～28年度
	スクールクラスターの構築に向けた特別支援学校の学校間マネジメントに関する研究	小澤 至賢	平成26～28年度
	特別支援教育での入力特性分析に基づいたICT機器活用評価手法の開発	金森 克浩	平成27～29年度
	吃音のある子どものレジリエンスの向上に関する教育支援プログラムの開発	牧野 泰美	平成28～30年度
	メンター機能を活用した自閉症幼児の家族への早期支援プログラムの開発と効果評価	柳澤亜希子	平成28～31年度
	インクルーシブ教育システムにおける合意形成のプロセスに関する研究	横尾 俊	平成28～30年度
	インクルーシブ教育システムにおける中学校の通級の在り方に関する研究	笹森 洋樹	平成28～30年度
	日本人学校における基礎的環境整備の視点の整理と適切な合理的配慮の提供	田中 良広	平成28～30年度
挑戦的萌芽研究	UV点字既存製法に代わる新規法提案と点字初心者用の触読し易いUV点字サイズの解明	土井 幸輝	平成27～29年度
若手研究(B)	共に学ぶ場における発達障害児と典型発達児の他者・自己理解を促進する心理教育的支援	李 熙馥	平成28～31年度
	自閉症児童の社会的スキルの般化・維持に対するセルフモニタリングの効果と変数の検討	半田 健	平成28～30年度

研究成果の還元

研究成果については、特別支援教育に関する国の政策立案・施策推進等に寄与するよう国に提供するとともに、都道府県・指定都市教育委員会や特別支援教育センター・学校等はもとより広く一般にも公開します。

また、研究成果報告書のほか、サマリー集やリーフレット、指導資料集、実践事例集、各種ガイドブック等を作成し、研究成果の効果的な還元を図っています。

研究所セミナーでの成果報告、地域における研究成果報告会の開催、研究所が実施する研修事業での報告、本研究所WEBサイトへの掲載など、様々な機会や情報ツールを活用して、研究成果を発信します。



詳しくはこちら→

NISE WEBサイト > 研究紹介

<http://www.nise.go.jp/sc/kenkyu/>